

徳川義親 とくがわ ぎしん 林政史家、狩獵家。明治十九年十月五日東京生れ、  
 昭和五十一年九月八日歿（八六—一九三六）。幼名錦之丞。舊藩井藩主松  
 平慶永の五男、尾張徳川家義禮の養子となる。明治四十四年東京帝國  
 大學文科大學國史學科卒、大正二年同大理科大學植物學科卒。徳川生  
 物學研究所、徳川林政史研究所等を設立。貴族院改革を踏へ、のち議  
 員辭職。戦時中南方軍軍政顧問。戦後徳川美術館を開設した他、文化  
 女子短期大學學長、獵友會會長、日ソ文化交流協會會長等々を務めた。  
 著書に、『江南とこうく』（昭和十四年四月十日モダン日本社）、  
 『日常禮法の心得』（昭和十四年十一月二十八日實業文日本社）、『ギ  
 のふの夢』（昭和十七年十月十日那珂書店）、『じやがたら旅行』（昭  
 和十八年十一月二十日十字屋書店）、『とくとくがわ・エチケツト教室』  
 （昭和二十四年十月五日黎明書房）、『最後の殿様』（昭和四十八年  
 九月二十日講談社）等。小田部雄次著『徳川義親の十五年戦争』（昭  
 和六十二年六月二十五日青木書店）がわる。

